

平成30年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について  
平成30年度（平成29年7月1日～平成30年6月30日）実績報告より先 - 2 - 1  
3 1 . 1 . 1 0

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（平成30年6月30日現在）	28種類	64種類	92種類
② 実施医療機関数（平成30年6月30日現在）	794施設※1	233施設※1	936施設※2
③ 全患者数	27,832人	707人	28,539人
④ 総金額（⑤+⑥）	約274.2億円	約10.4億円	約284.7億円
⑤ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約38.6億円	約6.1億円	約44.6億円
⑥ 先進医療費用の総額	約235.7億円	約4.4億円	約240.0億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑥／④）	85.9%	41.9%	84.3%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療（先進医療A）と第3項先進医療（先進医療B）の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

※3 ④⑤⑥については、各項目ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

## 平成30年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

平成30年度（平成29年7月1日～平成30年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（平成29年 6月 30日現在）	35種類	67種類	102種類
② 新規承認技術数	4種類	9種類	13種類
③ 保険収載技術数	6種類	3種類	9種類
④ 実施取り下げ技術数	—	9種類※1	9種類※1
⑤ 削除技術数	5種類	0種類	5種類
⑥ 先進医療技術数（平成30年6月30日現在）	28種類	64種類	92種類
⑦ 総括報告書受理数	—	7種類	7種類

※1 保険収載された技術は除いている。

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用 療養費の総額 (保険診療分)	先進医療に 係る費用 の総額	全医療費のうち 先進医療に係る 費用の割合
平成26年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績※1	H25.7.1～H26.6.30 (12ヵ月)	95	571施設	23,925人	約247億円	約73億円	約174億円	70.5%
平成27年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績	H26.7.1～H27.6.30 (12ヵ月)	108	786施設	28,153人	約295億円	約90億円	約205億円	69.5%
平成28年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績※2	H27.7.1～H28.6.30 (12ヵ月)	100	876施設	24,785人	約272億円	約86億円	約186億円	68.5%
平成29年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績	H28.7.1～H29.6.30 (12ヵ月)	102	885施設	32,984人	約278億円	約71億円	約207億円	74.6%
平成30年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績	H29.7.1～H30.6.30 (12ヵ月)	92	936施設	28,539人	約285億円	約45億円	約240億円	84.3%

※1 平成26年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 平成28年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 平成30年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

平成30年6月30日時点における先進医療Bに係る費用  
平成30年度実績報告(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 (上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん)	平22.5.1	-	-	-	-	-	-
2	十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法 (ホルモン不応性再燃前立腺がん)	平22.6.1	-	-	-	-	-	-
3	経胎盤的抗不整脈薬投与療法 (胎児頻脈性不整脈)	平22.7.1	-	-	-	-	-	-
4	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 (重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病)	平22.11.1	9,823,898	7,338,692	30.5	2	3,669,346	1
5	ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 (肺がん)	平24.1.1	-	-	-	-	-	-
6	ゾレドロン酸誘導γδT細胞を用いた免疫療法 (非小細胞肺癌)	平24.6.1	5,142,500	4,058,000	2.4	5	811,600	2
7	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法 (コレステロール塞栓症)	平24.11.1	23,307,253	5,544,144	51.6	8	693,018	6
8	NKT細胞を用いた免疫療法 (頭頸部扁平上皮がん)	平25.3.1	-	-	-	-	-	-
9	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 (C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変)	平25.6.1	-	-	-	-	-	-
10	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 (早期乳がん)	平25.8.1	12,930,741	4,101,611	6.3	26	157,754	8
11	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 (成人T細胞白血病リンパ腫)	平25.8.1	17,946,769	12,233,218	8.5	12	1,019,435	9
12	冠動脈又は末梢動脈に対するカテーテル治療におけるリーナルガードを用いた造影剤腎症の発症抑制療法 (腎機能障害を有する冠動脈疾患)	平25.10.1	-	-	-	-	-	-
13	トレミキシンを用いた吸着式血液浄化療法 (特発性肺線維症)	平26.1.1	5,013,250	1,235,000	21.3	3	411,667	2
14	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 (早期胃がん)	平26.1.1	82,023,736	3,206,290	17.8	54	59,376	10
15	オクトレオチド皮下注射療法 (先天性高インスリン血症)	平26.1.1	3,864,684	3,727,564	-	1	3,727,564	1
16	アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法 (急性脳梗塞)	平26.5.1	64,690,952	5,504,922	27.3	39	141,152	14
17	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 (初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫)	平26.6.1	89,559,835	50,865,221	24.6	34	1,496,036	19
18	FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 (不明熱)	平26.6.1	15,056,152	917,302	23.9	16	57,331	6
19	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 (アルツハイマー病)	平26.8.1	6,194,224	4,307,089	0.3	52	82,829	9
20	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 (全身性エリテマトーデス)	平26.8.1	8,422,560	256,684	37.5	6	42,781	3
21	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 (根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん)	平26.8.1	-	-	-	-	-	-

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
22	NKT細胞を用いた免疫療法 (肺がん)	平26.9.1	26,895,625	21,519,659	1.1	49	439,177	12
23	ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 (閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病)	平26.9.1	1,410	-	-	1	-	1
24	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 (腹膜偽粘液腫)	平26.11.1	-	-	-	-	-	-
25	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 (頭頸部腫瘍)	平26.12.1	6,511,090	1,891,000	3.6	15	126,067	3
26	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 (切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん)	平26.12.1	8,174,997	3,639,937	16.6	8	454,992	7
27	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 (特発性ネフローゼ症候群)	平27.2.1	45,218,479	20,784,839	4.3	47	442,231	17
28	ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与の併用療法 (特発性ネフローゼ症候群)	平27.4.1	-	-	-	-	-	-
29	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 (非小細胞肺がん)	平27.6.1	-	-	-	-	-	-
30	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 (半月板損傷)	平27.7.1	2,179,464	523,874	21.5	2	261,937	1
31	LDLアフェレシス療法 (閉塞性動脈硬化症)	平27.11.1	27,045,045	8,814,500	38.8	9	979,389	1
32	自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術 (僧帽弁閉鎖不全症)	平28.1.1	27,475,697	2,077,040	98.0	2	1,038,520	2
33	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 (腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損)	平28.1.1	985,879	277,944	11.0	1	277,944	1
34	テモゾロミド用量強化療法 (膠芽腫)	平28.1.1	8,569,051	7,389,291	-	9	821,032	7
35	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 (再発翼状片)	平28.1.1	1,400,234	1,005,344	3.0	4	251,336	1
36	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療 (褥瘡又は難治性皮膚潰瘍)	平28.1.1	8,049,870	766,790	21.1	12	63,899	4
37	mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 (胃がん)	平28.1.1	25,446,854	9,654,072	17.9	14	689,577	6
38	FOLFIRINOX療法 (胆道がん)	平28.2.1	1,882,716	54,600	21.0	2	27,300	1
39	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 (子宮頸がん)	平28.4.1	86,893,212	54,190,459	12.1	42	1,290,249	7

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
40	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断(初発の神経膠腫が疑われるもの)	平28.4.1	34,167,052	2,341,000	15.9	21	111,476	3
41	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療(胸髄損傷)	平28.4.1	4,312,820	1,200,000	51.0	2	600,000	1
42	陽子線治療(肝細胞がん)	平28.6.1	45,307,072	39,419,000	10.9	14	2,815,643	7
43	重粒子線治療(肝細胞がん)	平28.6.1	29,903,440	28,003,000	8.1	9	3,111,444	3
44	アキシチニブ単剤投与療法(胆道がん)	平28.6.1	4,802,907	3,036,773	2.0	9	337,419	2
45	重粒子線治療(非小細胞肺がん)	平28.7.1	35,237,000	33,512,000	3.7	11	3,046,545	4
46	ゲムシタビン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法(膵臓がん)	平28.10.1	28,165,040	25,120,000	10.1	8	3,140,000	3
47	ゲムシタビン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法(腹膜播種を伴う膵臓がん)	平28.10.1	7,927,464	202,000	28.7	3	67,333	1
48	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法(子宮頸がん)	平28.11.1	19,431,180	10,086,350	9.8	10	1,008,635	1
49	陽子線治療(肝内胆管がん)	平28.11.1	-	-	-	-	-	-
50	ヒドロキシクロロキン療法(関節リウマチ)	平28.11.1	1,201,299	525,369	-	14	37,526	1
51	水素ガス吸入療法(心停止後症候群)	平28.12.1	32,857,726	5,592,288	23.6	8	699,036	5
52	トラスツズマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法(乳房外パジェット病)	平29.2.1	4,149,055	3,181,225	2.5	6	530,204	1
53	術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法(小腸腺がん)	平29.4.1	4,923,986	4,301,876	-	5	860,375	2
54	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法(膵臓がん)	平29.4.1	-	-	-	-	-	-
55	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法(腹膜播種を伴う初発の胃がん)	平29.4.1	103,078,175	4,566,710	38.6	58	78,736	17
56(1)	陽子線治療(根治切除が可能な肝細胞がん)【陽子線治療を実施する施設】	平29.6.1	5,902,350	4,800,000	12.7	3	1,600,000	2
56(2)	陽子線治療(根治切除が可能な肝細胞がん)【外科的治療を実施する施設】	平29.6.1	-	-	-	-	-	-
57	131I-MIBGを用いた内照射療法(神経芽腫)	平29.7.1	21,772,310	1,190,000	108.0	2	595,000	1
58	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法(全身性強皮症)	平29.8.1	-	-	-	-	-	-

整理番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平均 入院期間 (日)	年間 実施件数 (件)	1件あたりの 先進医療費用 (円)	実施 医療機関数 (機関数)
59	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 (バージャー病)	平29.10.1	4,318,096	1,003,600	16.8	4	250,900	1
60	ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 (進行再発非小細胞肺癌)	平29.11.1	11,626,992	9,433,701	18.0	3	3,144,567	2
61	術後のアスピリン経口投与療法 (下部直腸を除く大腸がん)	平30.2.1	384,701	1,461	-	6	244	1
62	TRPV2阻害薬経口投与療法 (心不全)	平30.2.1	-	-	-	-	-	-
63	マルチプレックス遺伝子パネル検査 (進行再発固形がん)	平30.4.1	24,506,280	24,480,000	-	36	680,000	1
64	重粒子線治療 (直腸がん)	平30.6.1	-	-	-	-	-	-
合 計			1,044,681,122	437,881,439	/	707	619,351	220

※未実施により実績報告がないものは「-」としている。

平成30年6月30日時点における先進医療Bの  
 終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日	計画時患者数	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(平成29年7月～平成30年6月までの実績)(再掲)
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	埼玉医科大学国際医療センター	平22. 5. 1	平31. 11. 1	654	655	44	-
2	十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに限る。)	久留米大学病院	平22. 6. 1	平30. 5. 31	91	69	6	-
3	経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	国立循環器病研究センター	平22. 7. 1	平33. 3. 31	50	50	14	-
4	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	公立大学法人福島県立医科大学附属病院	平22. 11. 1	平33. 5. 20	20	8	5	2
5	ペトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平24. 1. 1	平33. 12. 31	800	804	49	-
6	ゾレドロン酸誘導γδT細胞を用いた免疫療法 非小細胞肺がん(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	東京大学医学部附属病院	平24. 6. 1	平31. 6. 30	85	23	1	5
7	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法 コレステロール塞栓症	独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院	平24. 11. 1	平31. 12. 31	35	30	13	8
8	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがIV期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。))に限る。	千葉大学医学部附属病院	平25. 3. 1	平32. 3. 31	66	23	-	-
9	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のものであって、従来の治療法(肝移植を除く。))ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	山口大学医学部附属病院	平25. 6. 1	平34. 3. 31	34	3	-	-
10	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平25. 8. 1	平35. 7. 31	372	372	8	26
11	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	平25. 8. 1	平成34. 9	74	38	36	12
12	冠動脈又は末梢動脈に対するカテーテル治療におけるリーナルガードを用いた造影剤腎症の発症抑制療法 腎機能障害を有する冠動脈疾患(左室駆出率が三十パーセント以下のものを除く。)	国家公務員共済組合連合会 横浜 栄共済病院	平25. 10. 1	平28. 9. 30	60	60	1	-
13	トレミキシンを用いた吸着式血液浄化療法 特発性肺線維症(急性増悪の場合に限る。)	日本医科大学付属病院	平26. 1. 1	平30. 6. 30	20	20	1	3
14	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26. 1. 1	平37. 5. 26	225	96	11	54
15	オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	大阪市立総合医療センター	平26. 1. 1	平31. 3. 31	7	5	2	1
16	アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法 急性脳梗塞(当該疾病の症状の発症時刻が明らかでない場合に限る。)	国立循環器病研究センター	平26. 5. 1	平32. 3. 31	300	130	40	39
17	放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	埼玉医科大学国際医療センター	平26. 6. 1	平29. 9	130	105	32	34
18	FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院	平26. 6. 1	平31. 3. 31	180	149	16	16
19	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	平26. 8. 1	平31. 12. 31	190	165	10	52
20	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腸骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	九州大学病院	平26. 8. 1	平31. 3. 31	150	11	4	6
21	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。)	近畿大学医学部附属病院	平26. 8. 1	平34. 1. 31	50	51	16	-
22	NKT細胞を用いた免疫療法 肺がん(小細胞肺がんを除き、ステージがIIA期、IIB期又はIIIA期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター	平26. 9. 1	平32. 9. 30	56	58	14	49
23	ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	平26. 9. 1	平31. 8. 31	6	6	5	1



告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日	計画時患者数	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(平成29年7月～平成30年6月までの実績)(再掲)	
24	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマインC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院	平26.11.1	平36.7.31	75	75	-	-	
25	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)	北海道大学病院	平26.12.1	平31.3.31	99	59	2	15	
26	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平26.12.1	平35.3.25	130	24	48	8	
27	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	平27.2.1	平32.1.31	80	79	26	47	
28	ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与の併用療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性ステロイド抵抗性のものに限る。)	国立成育医療研究センター	平27.3.31	平31.6.30	20	2	-	-	
29	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺がん(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	大阪大学医学部附属病院	平27.6.1	平34.10.31	500	335	9	-	
30	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	平27.7.1	平31.7.1	35	9	-	2	
31	LDLアフェレシス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。)	公立大学法人 横浜国立大学附属病院	平27.11.1	平32.10.31	35	14	-	9	
32	自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術 僧帽弁閉鎖不全症(感染性心内膜炎により僧帽弁両尖が破壊されているもの又は僧帽弁形成術を実施した日から起算して六ヶ月以上経過した患者(再手術の適応が認められる患者に限る。))に係るものに限る。)	日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院	平28.1.1	平31.3(予定)	25	2	4	2	
33	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	名古屋大学医学部附属病院	平28.1.1	平34.7.21		骨再生予定部位83部位(対照群28部位及び間葉系細胞群55部位:最大29例)	骨再生予定部位:対照群11部位及び間葉系細胞群13部位(3例)	-	1
34	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限り。)	杏林大学医学部附属病院	平28.1.1	平35.7.1	210	20	31	9	
35	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	国立大学法人富山大学附属病院	平28.1.1	平32.3.31	40	9	7	4	
36	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療 褥瘡又は難治性皮膚潰瘍(美容等に係るものを除く。)	聖マリアンナ医科大学病院	平28.1.1	平32.6.30	23	19	5	12	
37	mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 胃がん(腺がん及び腹膜播種であると確認されたものであって、抗悪性腫瘍剤の経口投与では治療が困難なものに限る。)	東京大学医学部附属病院	平28.1.1	平30.12.28	34	36	20	14	
38	FOLFIRINOX療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものに限り。)	東京大学医学部附属病院	平28.2.1	平31.7.31	35	5	-	2	
39	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がⅠB期以上及びⅡB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がⅠA2期以上及びⅡB期以下の腺がん)であって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	東京医科大学病院	平28.4.1	平36.9.30	100	42	8	42	
40	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経腫瘍が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。)	北海道大学病院	平28.4.1	平31.3.31	90	52	2	21	
41	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷学会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	平28.4.1	平32.3.31	10	4	-	2	
42	陽子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	北海道大学病院	平28.6.1	平34.5.31	180	26	10	14	
43	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	群馬大学医学部附属病院	平28.6.1	平35.6.1	130	14	4	9	
44	アキシチニブ単剤投与療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、ゲムシタピンによる治療に対して抵抗性を有するものに限る。)	杏林大学医学部附属病院	平28.6.1	平30.12.31	32	19	5	9	
45	重粒子線治療 非小細胞肺がん(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	九州国際重粒子線がん治療センター	平28.7.1	平35.6.30	150	21	3	11	

告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日	計画時患者数	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(平成29年7月～平成30年6月までの実績)(再掲)
46	ゲムシタピン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	放射線医学総合研究所病院	平28.10.1	平32.9.30	82	17	3	8
47	ゲムシタピン静脈内投与、ナブパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28.10.1	平30.11.30	18	3	-	3
48	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	平28.11.1	平32.4.18	27	8	-	10
49	陽子線治療 肝内胆管がん(切除が不能と判断されたものであって、化学療法が奏効しないもの又は化学療法の実施が困難なものに限る。)	筑波大学附属病院	平28.11.1	平34.10.31	40	-	10	-
50	ヒドロキシクロロキン療法 関節リウマチ(既存の合成抗リウマチ薬による治療でDAS28が二・六未満を達成できないものに限る。)	慶應義塾大学病院	平28.11.1	平31.12.31	120	18	-	14
51	水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	慶應義塾大学病院	平28.12.1	平32.2.29	360	14	12	8
52	トラスツマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 乳房外パジェット病(HER2が陽性で、切除が困難な進行性の)ものであり、かつ、術後に再発したもの又は転移性のものに限る。)	慶應義塾大学病院	平29.2.1	平33.3.1	13	6	-	6
53	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸がん(ステージがI期、II期又はIII期で、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平29.4.1	平43.11.9	150	11	18	5
54	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	平29.4.1	平34.5.31	180	-	1	0
55	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	名古屋大学医学部附属病院	平29.4.1	平32.4.1	50	53	19	58
56(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[陽子線治療を実施する施設]	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	平29.6.1	平41.12.1	290	9	14	3
56(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[外科的治療を実施する施設]	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	平29.6.1	平41.12.1	290	9	14	0
57	131I-MIBGを用いた内照射療法 神経芽腫(COGリスク分類又はINRG治療前分類で高リスク群と診断されるものであって、化学療法及び造血幹細胞移植が行われる予定のものに限る。)	国立大学法人金沢大学附属病院	平29.7.1	平31.7.31	8	3	-	2
58	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	平29.8.1	平34.7.31	12	-	-	0
59	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	平29.10.1	平34.9.30	25	4	1	4
60	ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	横浜市立市民病院	平29.11.1	平34.10.1	350	5	11	3
61	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期で、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平30.2.1	平40.3.30	880	7	-	6
62	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	独立行政法人国立病院機構刀根山病院	平30.2.1	平35.3.31	20	-	-	-
63	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(切除が困難で進行性のもの又は術後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平30.4.1	平31.10.31	350	62	-	36
64	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	放射線医学総合研究所病院	平30.6.1	平35.5.31	32	-	-	-

※ 記載のない先進医療技術については、既に先進医療から削除されたものであること。(平成30年6月30日時点)

※ 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(平成30年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

1年間(平成29年7月1日～平成30年6月30日)の実施件数が  
0件である先進医療技術(先進医療B)に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	埼玉医科大学国際医療センター	本試験は既に症例登録期間が終了しているため。	該当しない。	20件
2	十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに係るものに限る。)	久留米大学病院	適格基準が厳しく、症例がいなかったためである。	2017年5月31日にて登録終了となったため特記事項なし	0件
3	経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	国立循環器病センター	計画症例に達したため		4件
5	ペトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平成28年8月に予定した症例登録が完了し、現在は観察期間に入っているため。		19件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)
8	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん (診断時のステージがIV期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。)に限る。)	千葉大学医学部附属病院	先進医療専門部会より再開の許可が下りなかったため	現在、申請中	6件
9	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のもの)であって、従来の治療法(肝移植術を除く。)ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	山口大学医学部附属病院	今年度は該当する患者がいなかったため。	引き続き情報発信を行い、患者のリクルートを進めていく。	0件
12	冠動脈又は末梢動脈に対するカテーテル治療におけるリーナルガードを用いた造影剤腎症の発症抑制療法 腎機能障害を有する冠動脈疾患(左室駆出率が三十パーセント以下のものを除く。)又は末梢動脈疾患	国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院	予定症例数の終了に伴うもの	—	2件
21	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん (洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。)	近畿大学医学部附属病院	試験治療期間終了のため	なし	17件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)
24	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	国立国際医療研究センター病院	平成29年2月に予定症例数の75例に達したため、それ以降の新規登録を終了しました。	これまでに実施した75症例に対して、5年間の追跡調査の期間に入っておりますので、調査を継続中です。	23件
28	ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与の併用療法	国立研究開発法人国立成育医療研究センター	平成29年5月に先進医療の継続が承認され、平成29年8月に協力医療機関を追加し、腎臓専門施設への協力依頼を行い、患者登録に努めた。患者登録が進まず、平成29年10月にPMDA事前面談を行い、本試験結果をPOC試験と位置づけ、医師主導治験(検証的試験)として実施するよう助言を得たため、新たな患者登録を実施してない。	本先進医療の取下げが平成30年7月の先進医療技術審査部会で承認され、同年9月の先進医療会議受審予定である。	2件
29	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんとして診断されたものを除く。)	大阪大学医学部附属病院	本試験の症例登録は、2015年9月1日からであり、2018年6月30日現在の登録数は335症例であるが、脳梗塞発生による安全性検討の為に登録一時中断が2回(2016年7~8月、2017年4~5月)あり、独立安全性モニタリング委員会での審議等を経て実施計画書を改訂し、安全性を確保した上で再開したが、2017年7月の大阪大学倫理審査委員会において、本試験における「SAEの倫理審査委員会への報告遅延」、「先進医療変更届の申請不備」等に対して審議がなされ、適切な体制の再構築の策定まで、研究実施一時中断が決定された。	研究再開に向けて協議を重ねている間に、本研究とほぼ同様の症例登録基準を持つ大規模試験が開始されたこと、さらには本試験のハンプ投与群で4例の脳梗塞が発症したことがあり、独立安全性モニタリング委員会では左上葉切除など術式が大きな原因と考察されているものの、本研究に参加予定の患者さんにこの事実の説明を行うことで更に本研究へのエントリーに同意されない場合が増加することが想定され、今後の症例登録をさらに困難にするものと考えられた。 一方、中央モニタリングの結果からは、現時点で解析除外例が当初の想定よりも大幅に低いことが明らかになった。仮に症例数の合計が330例以上であれば、検出力は85%以上を確保できると考えられ、また、脱落率が計画時に想定していたもの(20%から30%)よりも相対的に低いこと(5%未満)が判明したため、これらに鑑み、現在の登録症例数335例についての観察結果を基に効果を評価することが現時点では最善の方策ではないかと判断するに至った。 これら諸事情を検討した結果、今後の症例数集積及び当初の予定症例数への到達が極めて難しい状況と判断せざるを得ないと判断し、実施計画の目標症例数を500例から335症例とする変更手続き中である。	82件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)
49	陽子線治療 肝内胆管がん(切除が不能と判断されたものであって、化学療法が奏効しないもの又は化学療法の実施が困難なものに限る。)	筑波大学附属病院	平成28年4月から2年弱の間に陽子線治療を実施した肝内胆管癌症例は13例であったが、それらの登録可能性を後向きに検討した結果、本試験に登録できなかった理由は以下のとおりであった。初診時にリンパ節等への転移が疑われたもの6例、合併症にて非適応となったもの2例、重複癌例1例、術後再発1例、組織診困難例1例、手術拒否例1例、化学療法継続可能であるが拒否1例であった。いずれも本試験の対象としては不適格であった。	先進医療取り下げ手続き中	0件
54	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	本試験の先進医療内容はジェネリック医薬品で構成されており、試験遂行のための資金獲得が困難な状況です。現在2017年度日本医療研究開発機構の研究資金の二次募集に応募しております。資金獲得が得られれば速やかに試験を開始する予定です。	日本医療研究開発機構での研究資金獲得	0件
58	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	対象疾患である重症全身性硬化症の症例は全国で2000人程度と希少であることに加えて、安全性の観点から登録基準、除外基準が厳密に定められていることもあり、対象被験者となりうる患者数は非常に少ない。また、使用予定だった機器の修理や、試験実施のための準備としての関連部署での演習を実施しており、実際に患者組み入れが可能となったのは、2018年4月以降であり、6月までに組み入れは実施できなかった。	すでに2018年7月に2例の同意取得を予定しており、候補症例も2例ほど控えている。元々、4年間の登録期間で12例を目標としており、現在、コンスタントに全国からの症例相談も続いていることから、現時点では目立った遅延とは考えていない。今後も引き続き、先進医療についての全国への広報を行っていく予定である。	-
62	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	国立病院機構刀根山病院	臨床研究法施行への対応、協力施設の実施施設承認に向けて調整中であるため	10月をめどに承認を得られるよう調整中	-
64	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	放射線医学総合研究所病院	2018年6月1日告示であったが、開始に向けての準備もあり、6月30日までには、実施できなかった。	実施医療機関や患者紹介元に医師や患者用のリーフレットを配布したり、先進Bのホームページを作成するなどして、先進Bの症例集積に努める。	-

※「-」は昨年度未実施の医療機関

## 暫定的に先進医療 A として実施している技術について

### 1. 背景及び現状

- 平成 20 年の先進医療告示第 2 項各号に掲げられた先進医療のうち、平成 24 年 11 月 30 日の先進医療会議において先進医療 B へ振り分けることとされた技術については、暫定的に先進医療 A（以下、「暫定 A」という。）として実施しているところ。
- 暫定 A の取扱いについては、平成 29 年 1 月 12 日に開催した本会議において審議され、以下のように決定した。

- ・ 平成 29 年 3 月 31 日までに先進医療 B への移行できなかった技術については、平成 29 年 4 月 1 日をもって先進医療告示から取り消すこととしていたが、現在、同技術を継続して実施している患者が存在している期間は告示からの取り消しを猶予してはどうか。
- ・ 新規患者の組み入れについては認めないままとし、猶予期間後の先進医療 B への移行については各医療機関の判断に任せてはどうか。
- ・ 実施している患者がいなくなった場合には、医療機関より事務局に連絡することとし、当該医療機関についてはホームページ上から削除し、全ての医療機関が削除された時点でその技術を先進医療告示から取り消すこととしてはどうか。

### 2. 暫定 A として実施している技術の現状について

- 暫定 A として実施している技術については、新規患者の組み入れがないこと及び継続中の患者の有無について、事務局が定期的に確認をしており、平成 30 年 11 月末時点の状況は以下のとおりである。

告示番号	先進医療技術名	平成 29 年 11 月 30 日時点	平成 30 年 11 月 30 日時点
3	骨髄細胞移植による血管新生療法	14	2
10	末梢血単核球移植による血管再生治療	1	1
12	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	6	6
13	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	23	16